

大学名 山梨大学

第74号 特集タイトル
「未来社会に向けた教員養成」

表題 地域学習アシスト事業：新たな課題に対応できる実践的な資質・能力を身に付けた教員の養成

地域学習アシスト事業とは

令和元年度にスタートし、今年度6年目を迎えています。

- ・学生が自主的に教育活動に参加する教育ボランティア活動をより充実させ、学生の実践力の向上を目指す取組
- ・小学校の教室に入って学習補助などのアシスト活動をする学部生、カンファレンスに参加する教職大学院生等と大学教員がチームとなって活動



カンファレンスの様子

取組内容

令和5年度に文部科学省より好事例(グッドプラクティス)として評価をいただきました！

- ・学部生は、1年間通して小学校の特定の教室に入り、支援の必要な児童をサポート(教科の学習面や生活面)
- ・大学教員は、学部生に同行し、学校との調整や学部生への助言を実施
- ・担任の先生と打合せを行うとともに、活動についての「チームカンファレンス」を実施。カンファレンスでは、学部生と大学教員、教職大学院生等が、子どもの行動の分析や、関わり方について意見交換し、次回方針を考察(理論と実践の往還)
- ・活動を通じて新たな課題に対応できる実践的な資質・能力を養成。甲府市内の小学校4校で実施中。

取組の工夫

理論と実践の往還がある活動を展開

事後アンケート

・活動を2段階に分けて実施

アシストA: 6月～10月

- 学習面や生活面等の支援を行いながらクラスの実態をつかみ、児童や学級担任と信頼関係を築くことを目指す。

アシストB: 11月～2月

- アシスト活動後に毎回アシストチームとカンファレンスを行います。
- 学校の課題解決に向けた取組を行い、実践力を身に付けることを目指す。

学部生

支援に入るタイミングや入り具合を見極める力、臨機応変に対応する力がついた。実際に教育現場に立った時に生かされるのではないかと感じた。

学級担任

授業中で気付かなかった児童の様子を教えてもらったり、細かな支援に入ってもらったり、自分の指導を改めてでき、自分自身の指導力向上にもつながった。